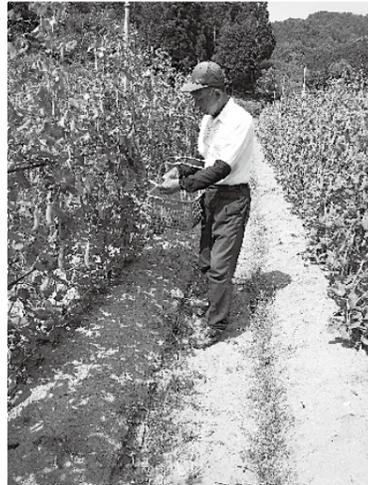


昔から農家や地域で大切に守られてきた多くの特産農産物を皆さんに知ってもらい、地域農業の振興に役立ててもらうため、この特集を行っています。今回は「実エンドウ」と「神鍋高原キャベツ」です。

丁度訪れた日は収穫開始で、例年に比べると一週間ほど遅れていますが、品質は良いということでした。収穫適期はさやがさらに大きくなったときで、5粒以上詰まったものをし規



実エンドウ部会長 一嶋さん

また収穫も短期間で作業なので、手間が少なくて済みます。

5月25日、JAたじま但東営農生活センター渡邊さんの案内で、豊岡市但東町河本但東町野菜生産組合実エンドウ部会長一嶋さんの栽培圃場を訪れ、話を聞きました。一嶋さんの実エンドウ栽培歴は15年になりますが、但東町での栽培となると、50年ほど前になるようです。ピーマンの収穫が始まる前に、何か換金できる野菜はないかと探していたところ、ピーマンの畝をそのまま播種でき、支柱などもそのまま使え、栽培も比較的簡単なことから栽培が始まったということでした。現在8人のメンバーで、約32アールを栽培されています。難しい点は連作障害です。栽培圃場は少なくとも5年は休作しないと障害が出るようです。また収穫も短期間で作業なので、手間が少なくて済みます。



さやが薄く甘いのが特長

格として出荷し、M規格や規格外のものもむき身で出荷しています。豊岡中央青果に出荷していますが、もう少し量を増やし、京阪神市場に出荷したいと言われていました。但東町の実エンドウは、ウスイエンドウという品種ですが、さやが薄く甘いのが特長です。おいしい但東の実エンドウを食べてみませんか、そしてピーマンの後作など、新規に栽培を始めてみませんか。

(農業委員 大原 博幸)

但東町の実エンドウ

農地パトロールを実施しました。

ストップ!遊休農地 ~農地と担い手を守り活かしてゆくために~

農業委員会では優良農地の確保と有効利用の促進を図っていくために、遊休農地の発生防止に取り組んでいます。

7月15日から8月2日にかけて、市内を11班（豊岡北A、豊岡北B、豊岡南A、豊岡南B、城崎、竹野、日高東、日高西、出石北、出石南、但東）に分けて農地パトロール（農地利用状況調査）を行い、昨年、利用意向調査を実施した農地が、意向どおりに実施されているか、新たに発生した遊休農地、解消された農地等の確認を行いました。

農地パトロールの結果、遊休農地があるときは、農地法第32条に基づき、その遊休農地の所有者に対し、その農地の農業上の利用の意向についての調査を行います。

また、高齢で耕作をやめられる方や、耕作者がみつからない農地を早めに把握し、次の耕作者につなげる農地利用の最適化の活動にも取り組んでいます。

農地にかかる相談は、地元の農業委員・農地利用最適化推進委員までご相談ください。



農地パトロール実施中



毎年、市内を巡回調査しています

農地の売買・贈与・転用等をする場合、農地法の許可が必要です。

農地法の適用対象となる「農地」とは、耕作の目的に供される土地と定義されています。（農地法第2条第1項）土地登記簿上の地目が田・畑ならもちろんですが、宅地等、農地以外でも、土地の現況が農地の場合、権利移動や農地転用するときは、農地法の許可を受ける必要があります。

農地法許可申請（届出）受付日

申請受付は、毎月1日から5日です。最終日の5日が休業日の場合は翌開庁日

年	月	許可申請(届出)受付日
2022	9月	1日(木)、2日(金)、5日(月)
	10月	3日(月)、4日(火)、5日(水)
	11月	1日(火)、2日(水)、4日(金)、7日(月)
	12月	1日(木)、2日(金)、5日(月)
2023	1月	4日(水)、5日(木)
	2月	1日(水)、2日(木)、3日(金)、6日(月)
	3月	1日(水)、2日(木)、3日(金)、6日(月)

農地法許可申請の種類及び許可までの期間

【申請受理から許可まで約1か月】

- ・農地法第3条…農地を耕作目的で権利移動（売買、賃借等）
- ・非農地証明申請、農地改良届（農地の形状変更）

【申請受理から許可まで約2か月】

- ・農地法第4条…農地を農地以外へ転用（権利移動伴わない）
  - ・農地法第5条…農地を農地以外へ転用（権利移動伴う）
- ※申請書の様式：農地法第3条は豊岡市のホームページ、農地法第4条、第5条は兵庫県のホームページにあります。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、総会の開催を延期し、農地法許可まで時間を要する場合があります。

神鍋高原キャベツ

6月19日（日）に道の駅「神鍋高原」にてキャベツ祭りが開催されました。今年で14回になります。10時〜13時にかけて盛り沢山の催しで賑わいました。

500個が用意された新鮮キャベツ販売（一玉100円）。なくなり次第終了のキャベツ焼きも振る舞われました。小学生までが参加するキャベツ運び大会。そして恒例のキャベツ大食い大会（大人の部）では、キャベツ1玉の丸かじり競技として今年も大変盛り上がりしました。

その他、お食事処「かんなべ」ではキャベツまつり限定メニュー（数量限定）の提供、神鍋温泉「ゆとろぎ」では、景品付きくじ引きがあり、こちらも大変好評でした。

神鍋のキャベツ栽培は、9月中旬に種まきを行い、10月下旬から11月に苗の移植を行います。春になり、追肥と中耕を3回ほど行い、防虫剤の散布をして青虫の対策を行って6月になりようやく収穫することができます。神鍋の美味しいキャベツを栽培するには大変な労力がかかります。現在、出荷農業者は16名程です。



採れたての神鍋高原キャベツの販売



道の駅で販売される「キャベツチップ」

最盛期には196名でしたが、高齢のため離農者が年々増え現在に至っています。道の駅「神鍋高原」では、キャベツからキャベツチップを作り、袋詰めしてお店で販売され、美味しく売れているそうです。

(農業委員 和田 敏明)



〒668-0312 豊岡市但東町南尾135番地 電話 0796-54-0843